

考えになるでしようし、私たちも知りたいためです。また
そうした案が、佐伯史談会員の視野をひろめ、啓蒙して
下さるのに格好のスケジュールではなからうかと思つて
います。

このことは史談会の評議員会で検討し、あなたとのご
連絡を十分とって決定されるものと存じますが、来年で
だめなら次の年でも、また少数の有志でも、いつの日
か実行できることを願っています。

どうかご健康に留意されて、ご研究がいつまでも続
くようお祈りするとともに、ご家族の皆様によろしく申し
て下さい。

ではこれで失礼します。

敬具

昭和四十九年十二月二十日

佐 野 貴 一 様 市 野 瀬 仁

(おわり)

探訪記

びろこの葉蔭の古塔

— 米水津村竹野浦御手洗を訪ねて —

会員 羽 柴 弘

去る一月十一日、土曜日の午後、私と米水津村教育委
員会の高寛氏と共に、竹野浦の御手洗家を訪れた。ご主
人は村議会の関係でお帰りになつていなかったが、夫人
が快く迎えて下さり、希望した古文書八通ばかり見せて
いただいた。

見られた毛利藩の漁村の庄屋への文書の外に、慶長六
年六月の「入津米津高」と題する浦々の書上帳と、初め

て見る漁村関係の文書と、今一つ、佐伯惟定から御手洗
家の率いる「海部衆」に対する感状があった。この三点
については、写真にとらせてもらつていたので、次の号
で紹介させていただきます。

紙のべて薄日に写す古き文字



(古い石幢の塔)

御手洗家の裏山は孟宗
の竹林で、数本のび
ろうが交つていて、
その蔭の葉蔭に上図
のような石幢が建つ
ている。明らか空

町時代の初期のものだと思われる。惜しいことに風蝕が
はげしく、銘鏝が全くない。

毎鳴れど古塔はしずか 苔むして

あたりには、脊の高さを越す元祿期の御影石の墓が何基
もあるが、それらに交つて、古風な墓がいくつもある。
元和二年の墓がまず見つかつたが、少しはなれて慶長の
年号がある。元年であつたか、二年であつたか、とに
かく今から三百八十年も前の古い墓で、ちゆんと戒名、
年月日が読入とれる。あるいはもつと古い天正、いれ更
に何十年かさかのぼれる、室町
時代のものがあるのではあ
るまいか。

この墓地、天然記

念物指定のびろこ、

それに御手洗家のも

つ古文書史料の調査と

共に、長時間をかけた。

次の機会を改めて設定したいと考えた。



(御手洗家の古い墓)